

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600168		
法人名	医療法人 竜門堂		
事業所名	竜門堂 グループホーム あったか荘		
所在地	佐賀県武雄市山内町大字三間坂甲13842番地12		
自己評価作成日	令和 4年 11月 17日	評価結果市町村受理日	令和5年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和 4年 12月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が家庭的な雰囲気のなかで一人ひとりの持たれている能力を活かし、少しでも認知症の進行を予防しながら穏やかな生活が送れるように全職員が認知症介護の理解を深め支援します。また、ご家族が安心して頂けるよう医療との連携を図りながら健康管理に努めます。ご家族や地域の方が気軽に訪問出来るような雰囲気と環境づくりに努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームからの徒歩圏内に電車の駅があり交通の便がいい立地にある。ホーム周辺の道も整備されており散歩がしやすい環境にある。ホーム内は天井が高く開放感があり、リビングやベランダからは電車の往来を室内から眺めることもできる。また、季節に応じた花を飾ったり、ホームの畑の野菜の成長を眺めることができるなど、温かみを感じる雰囲気となっている。協力医療機関は平日に毎日往診があり、定期の往診以外にも必要時に必要な医療を受けることができる。職員は入居者に寄り添ったケアを心がけており、定期的な話し合いと介護計画の作成、実践への反映に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
		東ユニット	西ユニット			東ユニット	西ユニット
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	○				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己 外部	項目	自己評価(東ユニット)	自己評価(西ユニット)	外部評価		
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、介護の原則、ABC運動、接遇目標を毎朝、申し送り時に職員全員で唱和している。掲げている理念をしっかりと受け止め、入居者様がゆっくり、穏やかな暮らしが送られよう実践につなげている。	運営理念、介護の原則、ABC運動、接遇目標を毎朝、申し送り時に職員全員で唱和している。掲げている理念をしっかりと受け止め、入居者様がゆっくり、穏やかな暮らしが送られよう実践につなげている。	玄関や事務所への理念の掲示、朝礼時の唱和、月の接遇目標などで理念の共有をしている。また、月1回のミーティングで理念に沿ったケアの検討をするなど、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の除草作業やゴミ収集所の掃除に参加している。今年も行事や避難訓練など地域の方の参加は中止している。今後状況により、地域との交流が出来る事を望んでいる。	地域の除草作業やゴミ収集所の掃除に参加している。今年も行事や避難訓練など地域の方の参加は中止している。今後状況により、地域との交流が出来る事を望んでいる。	コロナ禍により地域の人を招いた行事の開催は難しいが、地域の除草作業や職員のごみ収集所の掃除への参加、ベランダや散歩に出た際の挨拶などで交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流が軽減しているなか、居宅介護支援事業所の紹介により、ご家族が施設見学された際に認知症の方の生活や支援方法を説明している。	地域との交流が軽減しているなか、居宅介護支援事業所の紹介により、ご家族が施設見学された際に認知症の方の生活や支援方法を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現在は法人内の職員で開催している。会議録をご家族・民生委員・行政に郵送している。時には直接行政に手渡している。	運営推進会議は現在は法人内の職員で開催している。会議録をご家族・民生委員・行政に郵送している。時には直接行政に手渡している。	コロナ禍のため、2ヶ月1回、書面開催し、会議メンバーへ議事録を送付しているが、意見を聞く機会づくりはこれからである。	議事録を送付する際にご意見の用紙を同封するなど、メンバーに意見を求めやすい取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉課の保護担当者へ連絡相談や直接窓口での相談など行い、協力関係は築くよう取り組んでいる。	福祉課の保護担当者へ連絡相談や直接窓口での相談など行い、協力関係は築くよう取り組んでいる。	電話や訪問をするなど不明点について適宜確認をしている。また、定期的に報告、相談を行うなど、情報共有に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の対応をミーティングなどで話し合い、また、その都度発生した問題に対して検討し身体拘束しないケアに努めている。定期的に勉強会も開催している。	入居者様の対応をミーティングなどで話し合い、また、その都度発生した問題に対して検討し身体拘束しないケアに努めている。定期的に勉強会も開催している。	身体拘束はしておらず、定期的な勉強会をしている。また、対応が難しい入居者もミーティングで対応を検討し、家族にも説明するなど身体拘束に頼らないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の勉強会も定期的に行い話し合ってる。入居前の自宅での状況などケアマネジャーから情報を得ることもあり、虐待が見過ごされることがないように努めたい。	高齢者虐待防止の勉強会も定期的に行い話し合ってる。入居前の自宅での状況などケアマネジャーから情報を得ることもあり、虐待が見過ごされることがないように努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価(東ユニット)	自己評価(西ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修参加機会は出来てないが、成年後見制度を利用されている入居者様の関係者とは必要に応じ話し合い支援している。今後は学ぶ機会を持ち職員全員で理解を深めたい。	権利擁護の研修参加機会は出来ていない。今後は学ぶ機会を持ち職員も理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては入居時にご家族に説明を行い、不安や疑問点などお尋ねして理解・納得頂き、署名捺印を頂いている。	契約に関しては入居時にご家族に説明を行い、不安や疑問点などお尋ねして理解・納得頂き、署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の要望は直接面会が出来ない事や認知症の進行を気にされている事があります。長引くコロナ生活により、ドア越しでの面会もご理解して頂いている。時には写真やおたよりをお送りしています。	ご家族の要望は直接面会が出来ない事や認知症の進行を気にされている事があります。長引くコロナ生活により、ドア越しでの面会もご理解して頂いている。時には写真やおたよりをお送りしています。	電話や窓越し面会時に日頃の様子を伝えている。また、ホームだよりとともに個別に写真を送付するなど共有に努めている。出た意見は反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望や意見はその都度聞いて、法人の事務長・主任・総師長に報告相談して、意見を反映できるようにしている。	職員の要望や意見はその都度聞いて、法人の事務長・主任・総師長に報告相談して、意見を反映できるようにしている。	職員からの意見は活発にでている。ミーティングなどの会議の他、個別に話を聞く機会を設けており、入居者のケアに活かすよう反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者に勤務状況や個々の実績を報告し、現場の状況を相談して把握されている。個々の要望も聞き入れられて働ける環境・条件に努められているが、コロナ禍で行動制限などあり気分転換が出来てない職員もいる。	代表者に勤務状況や個々の実績を報告し、現場の状況を相談して把握されている。個々の要望も聞き入れられて働ける環境・条件に努められているが、コロナ禍で行動制限などあり気分転換が出来てない職員もいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は資格取得や研修参加の補助金支援を行われている。コロナ禍で研修参加は少なかったが、今後は研修参加の機会を増やしたい。	代表者は資格取得や研修参加の補助金支援を行われている。コロナ禍で研修参加は少なかったが、今後は研修参加の機会を増やしたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホームの研修会参加は出来ませんでした。今後、参加機会があれば他の施設との交流や活動を通じて、サービスの質の向上に努めたい。	県のグループホームの研修会参加は出来ませんでした。今後、参加機会があれば他の施設との交流や活動を通じて、サービスの質の向上に努めたい。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(東ユニット)	自己評価(西ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、出来る限りご本人に要望をお聞きするようにしていますが、ご家族からお聞きする事が増えています。要望を受け入れながら、安心した生活を送られるような関係づくりに努めている。	入居時、出来る限りご本人に要望をお聞きするようにしていますが、ご家族からお聞きする事が増えています。要望を受け入れながら、安心した生活を送られるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族の困っている事や不安に思われている事・要望などお聞きしながら関係づくりに努めている。	入居時にご家族の困っている事や不安に思われている事・要望などお聞きしながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に主治医や担当ケアマネジャー・管理者がご本人・ご家族に状況などお聞きして入居が望ましいか、他のサービスが望ましいか見極めている。	入居前に主治医や担当ケアマネジャー・管理者がご本人・ご家族に状況などお聞きして入居が望ましいか、他のサービスが望ましいか見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は介護状態が増えているが、人生の先輩であり敬い、食事などを共にし一緒に生活している気持ちで接している。	入居者様は人生の先輩であり敬い、色々尋ねたり、一緒に生活している気持ちで接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在直接会えない為、荘生活が不安に思われている部分もあり、心身の状態はドア越し面会時やお支払い時など報告している。ご家族との絆を大切にしている。	現在直接会えない為、荘生活が不安に思われている部分もあり、心身の状態はドア越し面会時やお支払い時など報告している。ご家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在も直接面会が出来ない為、ドア越し面会でも元気な姿を見られてご家族は安心される。ご本人は理解されてない方がふえている。	現在も直接面会が出来ない為、ドア越し面会時に電話で会話される事もある。時には面会時に涙される光景も見受けられる。	窓越し面会や敬老の日の手紙の受け取りなどの交流がある。また、馴染みの美容室の継続、受診時に地域の話をするなど、馴染みの人や場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の関係を把握して食卓の席を決め、孤立されないように配慮している。レクリエーションや荘内の行事にも皆様一緒に参加されている。	利用者様の関係性を把握して、席を決めているが、状況により、移動して頂くこともある。出来るだけ孤独にならないように関わりあい支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(東ユニット)	自己評価(西ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去されても、法人の病院に面会に行ったり、ご家族とお会いした時には、会話して現在の状況を尋ねている。	入院退去されても、法人の病院に面会に行ったり、ご家族とお会いした時には、会話して現在の状況を尋ねている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向の把握に努力している。	一人ひとりの思いや希望・意向を把握に努めている。時にはご家族に伝える時もある。	普段の関わりの中や入浴時などの会話の中から意向の把握に努めている。また、入居者の行動パターンに合わせた対応をするなど、意向に沿った対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族、ケアマネジャーに生活歴や暮らし方、サービスの利用などをお聞きして把握に努めている。	入居時にご本人やご家族、ケアマネジャーに生活歴や暮らし方、サービスの利用などをお聞きして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態を把握して、個人の力量にあった一日の生活を過ごして頂くように努めている。	一人ひとりの心身の状態を把握して、個人の力量にあった一日の生活を過ごして頂くように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はご本人、ご家族に意向をお尋ねし、主治医意見を組み入れ、担当者会議を開催し職員の意見を反映させた介護計画を作成している。ご本人・ご家族に説明して署名・捺印頂いている。電話や郵送などでも行っている。	介護計画はご本人、ご家族に意向をお尋ねし、主治医意見を組み入れ、担当者会議を開催し職員の意見を反映させた介護計画を作成している。ご本人・ご家族に説明して署名・捺印頂いている。電話や郵送などでも行っている。	介護計画の家族への説明は電話や郵送で行っている。主治医の意見も事前に確認したうえで職員間で担当者会議を行い、入居者のケアに沿った計画作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の健康チェックや日々の生活状況を介護計画にそって記録行い、個人の情報は申し送りノートに記載して職員間で共有している。状態の変化や・気づきを伝達して介護計画の見直しに活かしてる	毎日の健康チェックや日々の生活状況を介護計画にそって記録行い、個人の情報は申し送りノートに記載して職員間で共有している。状態の変化や・気づきを伝達して介護計画の見直しに活かしてる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時ドア越しやマスク着用ではご家族を理解されない為、ベランダ越し面会され、心身の状況や変化などお話しして、柔軟な支援サービスに取り組んでいる。	面会時(ドア越し)や電話などで、心身の状況の変化などお話しして、柔軟な支援サービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(東ユニット)	自己評価(西ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ケアマネジャーから地域の事を教えてもらったり、認知症介護で悩まれているご家族に地域資源の活用を伝えるなどの支援をしている。	ケアマネジャーから地域の事を教えてもらったり、認知症介護で悩まれているご家族に地域資源の活用を伝えるなどの支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	竜門堂医院から定期的に訪問診療を受けられている。体調異常時には上申して往診受けられ適切な医療を受けられている。	竜門堂医院から定期的に訪問診療を受けられている。体調異常時には上申して往診受けられ適切な医療を受けられている。	入居時に説明したうえで協力医療機関を利用している。協力医療機関は平日にホームに往診しているため、往診日以外でも適宜相談し対応が可能である。他科受診についても、必要時には送迎などホームの支援を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の情報や気づきを看護職員に伝え相談して処置など行っている。訪問看護時は色々相談し、状態により主治医に上申して適切な医療を受けられている。法人内の医療連携で24時間の体制が整っている。	入居者様の情報や気づきを看護職員に伝え相談して処置など行っている。訪問看護時は色々相談し、状態により主治医に上申して適切な医療を受けられている。法人内の医療連携で24時間の体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調異常時は法人の病院に入院できるようにしている。退院時は院長や師長から状態の報告を受けている。最近是他の医療機関からの入居はないが、入居時はソーシャルワーカーからの情報提供を受けている。	体調異常時は法人の病院に入院できるようにしている。退院時は院長や師長から状態の報告を受けている。最近是他の医療機関からの入居はないが、入居時はソーシャルワーカーからの情報提供を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に説明して、署名頂いている。状態悪化された時は主治医からご家族に説明され、希望を受け入れながら支援している。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に説明して、署名頂いている。状態悪化された時は主治医からご家族に説明され、希望を受け入れながら支援している。	入居者の状況は、家族へ説明し情報共有や意向の反映に努めている。重度化した場合は、主治医から家族へ説明し、医療機関や他施設など、入居者に必要な医療やケアができる機関へのつなぎ支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応ができるように勉強会や訓練など行っているが、定期的に行う必要性もある。	急変時や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応ができるように勉強会や訓練など行っているが、定期的に行う必要性もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回は行っている。火災や災害時の夜間想定訓練を主に行い、全職員が身につけている。訓練には地域・消防署の訓練参加はされていませんが協力体制は築いている。	避難訓練は年2回は行っている。火災や災害時の夜間想定訓練を主に行い、全職員が身につけている。訓練には地域・消防署の訓練参加はされていませんが協力体制は築いている。	年2回夜間想定を含めた避難訓練を実施し、職員はいずれかに参加している。消防団はコロナ禍のため訓練参加は難しいが、挨拶や差し入れする等の交流の継続に努めている。他災害についてもホーム内の物の配置確認や法人との連携を想定するなど、災害対策に努めている。	

自己 外部	項目	自己評価(東ユニット)	自己評価(西ユニット)	外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した対応に心掛けています。排泄など特にプライバシーを損ねない対応は十分注意するようになっているが、時々出来てない時も見受けられる。	一人ひとりの人格を尊重した対応に心掛けていますが、お風呂嫌いの入居者の対応には苦悩する場面も見受けられる。	倫理委員会で定期的に確認している。その他、トイレ誘導時の羞恥心への配慮した声掛けや、職員の言葉遣いへの配慮をしている。記録の保管は事務所でするなど個人情報の管理に努めている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望は受け入れている。また自己決定できるような働きかけもしている。	利用者様の思いや希望は受け入れるようにしているが、出来ない時もあり、説明して理解して頂いている。また、理解出来ない入居者様にはその時の状況にあった対応をしている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度、施設側の決まりや都合はあるが、一人ひとりの体調やペースを大切にしてお過ごされている。	ある程度、施設側の決まりや都合はあるが、一人ひとりのペースに合わせた対応に心掛け支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、ご自分のお気に入りの洋服を選ばれ着衣される入居様や出来ない入居者様は職員が準備を行い身だしなみの支援をしている。	衣類の準備は職員が行っている。重ね着を希望される時は選んで着衣されている。男性の入居者様は毎朝髭剃りされ、身だしなみの支援をしている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の楽しみの一つは食事時間である。形態が小刻みやミキサー食であり、目での楽しみが少し軽減している為、メニューを伝えている。お盆拭きや野菜の皮むきなど出来ることをして頂き支援している。	食事は楽しみにされている。配膳準備中でも美味しそうな声も聞かれる。お盆拭きや茶碗拭き、野菜の皮むきなど出来る事をして頂き支援している。	ホームで調理しており、入居者の状況に合わせた食事形態で提供している。行事食の他、ホームの畑で作った野菜や入居者の意向を献立に反映している。また、皮むきなど一緒にするなど、食事を楽しむ支援に努めている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜・魚・肉の家庭的な献立を考え、入居者様に合わせた形態、食事量を提供している。水分摂取もトロミをつけたり、好みの飲み物を提供したり、栄養補助食品など一人ひとりに合わせて提供している	野菜・魚・肉の家庭的な献立を考え、入居者様に合わせた形態、食事量を提供している。水分摂取もトロミをつけたり、好みの飲み物を提供したり、栄養補助食品など一人ひとりに合わせて提供している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性は理解している。一人ひとりの口腔状態を把握して、口腔用具を使用して口腔ケアをしている。拒否時は状況に応じて対応している。	口腔ケアの重要性は理解している。一人ひとりの口腔状態を把握して、ケアを行っている。拒否時は状況に応じて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価(東ユニット)	自己評価(西ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、出来るだけ昼間はトイレでの排泄介助を行っているが、下肢筋力低下の入居者様は夜間ポータブルトイレやオムツ着用している。	一人ひとりの排泄パターンを把握して、出来るだけ昼間はトイレでの排泄介助を行っているが、夜間は下肢筋力低下の入居者様はポータブルトイレ使用や尿器、オムツ着用をしている。	排泄パターンに応じた誘導や2人介助をするなど、日中はトイレを利用する入居者がほとんどであり、排泄の自立支援に努めている。また、誘導時は歩くことを意識し、会話や歌を楽しむなどの工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響は理解して食事、水分の工夫はしている。個々の状態により、主治医に相談して下剤や座薬を使用して体調管理をしている。	便秘の原因や及ぼす影響は理解して食事、水分の工夫はしている。個々の状態により、主治医に相談して下剤や座薬を使用して体調管理をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望により入浴されるのが望ましいが入浴日は決めている。個々に合わせた入浴法や皮膚疾患の状態が入浴されている。	希望により入浴されるのが望ましいが入浴日は決めている。個々に合わせた入浴法や皮膚疾患の状態が入浴されている。拒否が強い入居者様の対応は工夫して、入浴が楽しみにされるように努力したい。	入居者の要介護度が上がってきていることもあり、ホーム内の機械浴を利用し、週2回入浴している。入居者の体調や気分などの状況に配慮しながら入浴時間やシャワー浴等の調整をし、入浴中は会話を楽しめる時間となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの心身の状況に応じて休息されている。夜間不眠の入居者様には主治医に相談して眠剤を使用されている。	一人ひとりの心身の状況に応じて休息されている。夜間不眠の入居者様には主治医に相談して眠剤を使用されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用されている薬や副作用は説明書により理解するようにしている。服薬介助には十分注意して与薬を行っている。	一人ひとりが服用されている薬や副作用は説明書により理解するようにしている。服薬介助には十分注意して与薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味などお聞きして、出来る事や皆様と一緒にレクリエーションを楽しんで頂いている。	一人ひとりの生活歴や趣味などお聞きして、出来る事や皆様と一緒にレクリエーションを楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍が長引いて外出が出来なく外出したいとの思いが無くなれた入居者様もあります。陽気のいい時は荘外散歩やベランダに出て気分転換を図っている。今後、外出が出来られる事を願っています。	コロナ禍で外出できないと理解されている入居者様は納得されますが、理解出来ない入居者様は気分転換に荘外散歩など試みています。今後自宅などへ外出出来る事を願っています。	コロナ禍や重度化により外出の機会は減っているが、散歩やベランダでのお茶など戸外に出る機会を設けている。また、ホームの畑でできた野菜の収穫も楽しみとなっている。	

自己	外部	項 目	自己評価(東ユニット)	自己評価(西ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在個人で所持金を持たれている入居者様はなく、ご家族からお預かり金として施設管理をしている。希望のお菓子や日用品、衣類など購入して、年間の会計報告を行っている。	現在個人で所持金を持たれている入居者様はなく、ご家族からお預かり金として施設管理をしている。希望のお菓子や日用品、衣類など購入して、年間の会計報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在ご家族に電話や、手紙の希望される入居者様は無く、年賀状など届いた時は読んで手渡している。オンライン面会は困難である。	電話を希望される時はしているが、入居者様の心身状態に応じて、ご家族に電話していかは見極めて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ディールームは天井が高く明るい空間であり、対面式の台所で調理している音や匂いを感じて頂いている。広い窓からベランダ越しに季節の風景や最近では色々な列車が走っているのを眺められています。	ディールームは天井が高く明るい空間であり、対面式の台所で調理している音や匂いを感じて頂いている。広い窓からベランダ越しに季節の風景や最近では色々な列車が走っているのを眺められています。	ディールームは天井が高く、開放感がある。ホーム内は季節の飾りや花などがあり季節を感じるができる。またホームの畑で育てている野菜の成長を見ることも入居者の楽しみとなっている。床暖房や空気清浄機等もあり、温度や湿度、換気にも配慮するなど、居心地のいい共用空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士の居場所になっている。食事中は介助を要する入居者様が増えている為、場所を変えたりその時の状況に応じた居場所に工夫している。	気の合った入居者様同士やトラブルにならないように居場所配置をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は空いた居室に入居されている。使い慣れた物の持ち込みは少ないが、ご家族の写真やプレゼントのお花など飾られている。	入居時は空いた居室に入居されている。使い慣れた物の持ち込みは少ないが、ご家族の写真やプレゼントのお花など飾られている。	ベッドの位置など入居者の動きやすさや介助しやすい配置にしている。また、家族の写真を飾るなど、居心地のよい居室の配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー化して廊下、トイレ、浴室に手摺りを設置し安全で出来るだけ自立した生活を送れるようにしている。居室の入り口には名前を掲示し、トイレも解かるに表示している。	バリアフリー化して廊下、トイレ、浴室に手摺りを設置し安全で出来るだけ自立した生活を送れるようにしている。居室の入り口には名前を掲示し、トイレも解かるに表示している。		